

2. 17 (3) 管材別施工要領

§ 1 ダクタイトル鋳鉄管配管 (DCIP)

ア 継手の施工要領

A 継手の種類

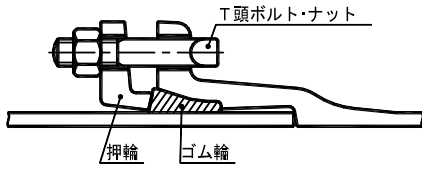
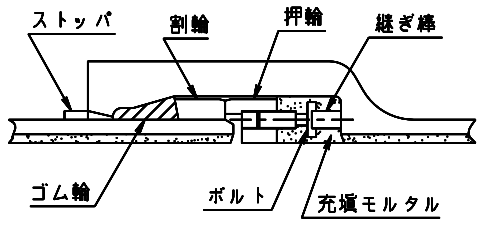
ダクタイトル鋳鉄管の接合形式は多岐にわたっているが、いずれも（フランジ形、KF形、及びUF形は除く）伸縮及び可とう性（1～5°程度曲げ角度が許容される）に優れ、管体に無理な応力を与えることなく地盤の変動によく順応できる。

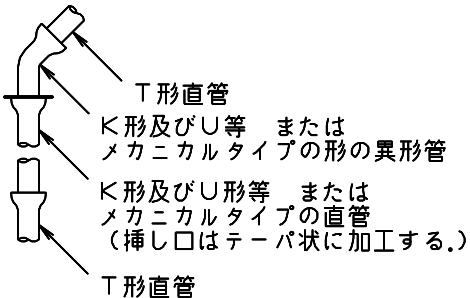
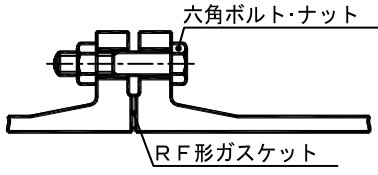
その選定にあたっては、各種継手の特徴及び用途を熟知し、使用条件に最も適したものを選ぶことが大切である。

● K形、U形、T形、フランジ形

（JIS G 5526 JIS G 5527 JIS G 5528 等規格品）

JISで定められている接合形式について、適用呼び径、管種、特徴及び設計・施工の留意点等を、以下に示す。

接合形式	呼び径(mm)	管種	特 徴	設計・施工の参考
K形	75～2,600	D1～D5	 <p>ゴム輪は、角ゴムと丸ゴムを一体化したもので、丸ゴム部を強く圧縮させるので、圧縮量が大きく、継手の水密性を高めたメカニカルタイプで、伸縮性及び可とう性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般用 ・許容曲げ角度を考慮すること。 ・温度変化吸収のための伸縮継手は不要。 ・抜出し力の働く箇所には、適切な防護が必要。
U形	700～2,600	D1～D5	 <p>管の内面から接合を行うメカニカルタイプで、継手の水密性はK形と同じである。 伸縮性及び可とう性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ずい道内、シールド内及び掘削幅が狭い所に適する ・許容曲げ角度を考慮すること。 ・シールド内配管の場合、その内径は、管呼び径 +600mm 以上が必要。 ・温度変化吸収のための伸縮継手は不要。 ・抜出し力の働く箇所には、適切な防護が必要。

接合形式	呼び径 (mm)	管種	特 徴	設計・施工の参考
T形	75~2,000	D1~D5	<p>受口の内面にゴム輪を装着し、テーパ状の挿し口を挿入するのみで、接合できるプッシュインタイプである。</p> <p>作業が迅速であり、継手の水密性が高く、かつ伸縮性及び可とう性がある。</p>	<p>設計・施工の参考</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一般用（直線部の多い管路に適する） • 許容曲げ角度を考慮すること。 • 呼び径 300mm 以上の異形管については、K形異形管を用いる。 • 切管をした場合、挿し口端に所定の面取りが必要。 • 温度変化吸収のための伸縮継手は不要。 • 抜出し力の働く箇所には、適切な防護が必要。 • T形管の受口にK形及びU形の直管を接合する場合は、T形の挿し口部許容差を満足しているものを用い挿し口部端面を規格に示すテーパ状に加工する。  <p>〔異形管部の配管例〕 φ 300 以上の場合</p>
フランジ形	75~2,600	DF	<p>両方のフランジの合わせ面に、ガスケットをはさんでボルトで締め付ける。</p> <p>剛性の大きい継手であるから、たわみや伸縮性はない。</p>	
	7.5K R F形-R F形の組合せ		 <p>六角ボルト・ナット</p> <p>R F形ガスケット</p>	